

伊豆市長 菊地 豊 様

「天城湯ヶ島 I C（仮称）周辺将来ビジョン」
に係る最終報告

平成29年3月14日

天城湯ヶ島 I C（仮称）周辺構想検討協議会

委員長 二井 昭佳

○天城湯ヶ島地区が目指すまちづくりの将来像について

少子高齢化・人口減少が進行する中、将来にわたり豊かな社会を形成していくためには、市民と行政が一体になって、まちの魅力を最大限に引き出すとともに、ふるさとへの誇りや明日への希望を持ち、元気で幸せに暮らし続けられる環境を整えることが重要です。

天城湯ヶ島地区は、狩野川の上流域に位置し、谷あいの溪流の景観とともに、自然のままの美しさが残る天城連山とそこから育まれるおいしい水、ワサビやシイタケ、紅姫あまごや天城軍鶏、イズシカなど多くの地場産品に加え、日本を代表する文人墨客たちに愛された文学の里や温泉など、多くの恵まれた資源を有しています。これらの地域資源と市民の日常生活をより密接なものとするとともに、伊豆縦貫自動車道の南進といったチャンスを活かし、伊豆半島の広域的な交流拠点の役割を担っていく必要があります。

平成 30 年度末には天城湯ヶ島 IC（仮称）の開通に伴い、高規格な交通ネットワークの構築が地域振興や防災にも大きく寄与するものと期待されています。当検討協議会では、平成 27 年度の間接報告において、伊豆半島の中央に位置する天城湯ヶ島地区の立地を生かした地域活性化を目指し、インターチェンジ周辺における道の駅の整備を提案いたしました。平成 28 年度においても、道の駅の基本計画の検討過程において、本協議会および地域住民ワーキングにより天城湯ヶ島地区全体の発展に資する道の駅のあり方について検討するとともに、IC 周辺の活性化構想の検討を行ってきました。その検討成果を以下のとおり取りまとめましたので、本協議会による最終報告として提出いたします。

1 目指すべき方向性<コンセプト>について

伊豆半島の広域道路の東西軸と南北軸が交差するという天城湯ヶ島地区の立地特性を生かした地域活性化を目指して、月ヶ瀬地区と宿地区の2ヶ所に地域振興拠点を配置することとし、インターチェンジのある月ヶ瀬には以下のコンセプトで道の駅を整備すべきである。

- (1) 天城湯ヶ島地区～伊豆半島南西部への玄関口として、伊豆市をはじめ、伊豆半島の観光情報発信拠点、非日常を味わえる農業などの着地型観光体験機能、地産地消の飲食機能や地場農水産物の物販機能など、訪れた人をもてなし、地域の魅力を伝える場づくりを目指す
- (2) 地域の人たちが日常的に使え、子育て交流や多世代交流場といったコミュニティの拠点、さらには雇用を生むことで、地元にも愛される場づくりを目指す
- (3) 狩野川の自然や景観を活かし、地域住民、観光客双方のレクリエーションや憩いの場になるような環境づくりを目指す
- (4) 伊豆半島中央に位置する広域道路網の結節点という立地、天城北道路という高規格幹線道路を活かした防災拠点づくりを目指す

これらにより、インターチェンジ周辺だけににぎわいが生まれるのではなく、周辺地域にも効果が波及し、天城湯ヶ島地区の一体性がさらに高まるようにしていくべきである。

2 導入すべき機能について

天城湯ヶ島地区の伊豆半島における広域観光の玄関口、生活・交流の場、防災拠点として、道の駅には以下の機能を導入すべきである。

平成30年度末の天城湯ヶ島IC（仮称）の開通に合わせた施設整備にあたり、道の駅における機能導入が困難な場合は、道の駅周辺におけるまちづくりによる実現や、道の駅における将来的な事業内容の変更や拡張、施設改修による実現に取り組むべきである。

- (1) 地産地消のカフェなどの飲食、地場農水産物の物販機能
 - ・物販機能は、天城湯ヶ島地区の地場農産物の販売だけでなく、地域の食文化を継承・創出・発信するための商品開発や6次産業化を行うための加工設備など生産、加工、販売の連携ができる施設とする。
 - ・飲食機能は、地場材を用いたメニューなど天城湯ヶ島地区の特色をいかすとともに、来訪者や地域の人々の利用しやすさに配慮した施設とする。
- (2) 伊豆市をはじめ、伊豆半島の観光情報発信機能
 - ・地域の観光案内機能を集約して天城湯ヶ島地区に特化した情報発信を行うとともに、情報検索機器や地域の人材の配置により、訪れた人の様々な相談や要望に応え、着地型観光を支援する施設とする。
- (3) 農業などの着地型観光体験機能
 - ・周辺地域の農業、林業、観光業や地域の文化を継承する人材や活動団体と連携し、道の駅に訪れた人に天城湯ヶ島地区の自然、農林業、食文化の体験、交流機会を提

供する施設とする。

(4) 狩野川の自然や景観を活かした広場空間、イベントスペース機能

- ・狩野川と連続した立地を活かし、狩野川に面するテラスの整備など狩野川の水辺や対岸の眺めを活かした憩いの場を設けるとともに、親子が安心して利用できる子供の遊び場を設ける。
- ・狩野川の水辺へのアクセスを確保し、利用者の安全と鮎釣りとの共存に配慮した野外レクリエーションを提供する。
- ・駐車場と地域振興施設の一体的な利用ができる広場空間を設け、天城湯ヶ島地区の魅力発信や来訪者との多様な交流イベントに利用できる施設とする。

(5) 高規格幹線道路を活かした防災拠点機能

- ・災害時の防災拠点としての利用を考慮した安全性を確保するとともに、帰宅困難者のための防災備蓄など来訪者の避難施設として必要な機能を備えた施設とする。

(6) バスターミナルなどの公共交通機能やサイクリストの拠点機能

- ・ミニバスやタクシーなど、地域の人や訪れた人の地域内交通手段を提供するとともに、交通結節点として快適に利用できる乗降場を設ける。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車競技（トラックレース／マウンテンバイク）開催地として、天城湯ヶ島地区～伊豆半島を訪れるサイクリストの発着点や休憩・交流の場となるよう、自転車での安全なアクセスとサイクルステーションを設ける。

(7) 地域住民と来訪者の交流、多世代の交流機能

- ・物販・飲食と連続した多目的スペースや広場空間・イベントスペースなど、地域の子育て交流や多世代交流、地域と来訪者の交流など多様な交流イベントに柔軟に利用できる施設とする。

3 空間整備のあり方について

〔付属資料1 天城湯ヶ島 IC 道の駅（仮称）施設計画の考え方〕

道の駅の地域振興施設の空間デザインとその利用のあり方について、「天城湯ヶ島 IC 道の駅（仮称）施設計画の考え方」にまとめた。これを反映した天城湯ヶ島 IC 道の駅（仮称）基本計画（案）を基本として、今後の施設整備および管理運営を行うべきである。

4 道の駅と連携した周辺地域の活性化について

道の駅は、地域振興施設における賑わいの創出にとどまらず、天城湯ヶ島地区全体の観光交流の活性化や地域に暮らす人が豊かさを感じられる活性化につながる運営を行うべきである。

(1) 収益性と公益性の両立と持続可能な運営

- ・物販・飲食など集客力を高め自立した運営を行う機能とともに、子どもの遊び場など公園的空間や地域住民の多世代交流など公益的な機能の両方を有する施設として公民の連携と適切な役割分担により、持続可能な管理運営を行っていくべきである。

(2) 地域との連携による道の駅と地域の魅力づくり

- ・道の駅の運営にあたっては地域の協力者・協力団体と連携し、地域からの出品や出店、イベント開催や着地型観光ツアーの提供等により道の駅の魅力を高めていくとともに、地域の生産拡大や生産者の生きがいがづくり、交流人口増加や多世代の参画・交流機会の増加により、次世代へ向けたまちの魅力を高めていくべきである。

(3) 周辺地域の活性化プロジェクトの推進

- ・道の駅開設にむけた運営準備とともに、天城湯ケ島地区の地域づくりや活性化の活動と連携し、地場産品の出荷と食文化の継承・創出・発信や野外アクティビティの提供、散策まちづくりなど、周辺地域における活性化プロジェクトを推進するべきである。

[付属資料2 天城湯ケ島IC道の駅（仮称）周辺将来ビジョン図]

(4) 地域・事業者・行政の継続的なパートナーシップ

- ・上記を実現するため、道の駅の事業者は、周辺地域の活性化に継続的に協力、連携して道の駅の運営を行っていくべきである。
- ・事業者の選定にあたっては、天城湯ケ島IC道の駅（仮称）基本計画（案）の趣旨を理解し、地域との連携による魅力づくりに取り組む事業者を選定すべきである。

平成 28 年度検討協議会 経緯

平成28年 6月29日	第1回 天城湯ケ島IC（仮称）周辺構想検討協議会
平成28年10月28日	第2回 天城湯ケ島IC（仮称）周辺構想検討協議会
平成29年 3月10日	第3回 天城湯ケ島IC（仮称）周辺構想検討協議会

ワーキング 経緯

平成28年 6月29日	第1回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング
平成28年 8月 4日	第2回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング
平成28年 9月12日	第3回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング
平成28年10月20日	第4回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング
平成28年12月19日	第5回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング
平成29年 2月28日	第6回 天城湯ケ島 IC（仮称）周辺構想検討ワーキング

検討協議会 委員名簿

二井 昭佳	国土舘大学理工学部准教授	委員長
鈴木 良男	月ヶ瀬区 区長	
堀井 美治	門野原区 区長	
内田 藤久	吉奈区 区長	
大川 孝行	田沢区 区長	
堀江 清隆	矢熊区 区長	
鈴木 房次	持越区 区長	
津田 講二	青羽根区 区長	
仲原 薫	下船原区 区長	
鈴木 正三	伊豆の国農業協同組合 組合長	
小森 泰信	伊豆市観光協会 会長	
宇田 治良	伊豆市観光協会 天城湯ヶ島副支部長	
土屋 晃	天城湯ヶ島温泉旅館組合 組合長	
青木 喜代司	伊豆市商工会 会長	
鈴木 明廣	伊豆市商工会 天城湯ヶ島支部長	
堀江 昭二	天城北道路建設推進委員会 委員長	
山本 秀利	農事組合法人 伊豆月ヶ瀬梅組合 組合長	
堀江 良英	伊豆市農業委員会 月ヶ瀬地区担当委員	
古見 梅子	女性有識者	
鈴木 光子	女性有識者	
城所 知代	女性有識者	
津田 一成	伊豆市商工会青年部	
田口 友次	狩野川漁業協同組合代表理事組合長	
辻 英雄	国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所 建設監督官	オブザーバー
中野 毅張	静岡県交通基盤部道路企画課調整班 班長	オブザーバー
堺 友里	静岡県交通基盤部道路企画課調整班 技師	オブザーバー
古屋 徹之	静岡県交通基盤部沼津土木事務所 修善寺支所 支所長	オブザーバー
伊豆川 誠人	静岡県交通基盤部沼津土木事務所企画検査課 班長	オブザーバー
露木 克好	静岡県 大仁警察署 署長	オブザーバー

事務局

伊豆市 総合政策部 総合戦略課
 産業部 観光商工課
 建設部 建設課
 用地管理課